

来春4月オープン 七日町御殿堰 開発事業

http://gotenzeki.co.jp/

七日町を流れる『御殿堰』を中核とした再開発事業です。木造建築の母屋と座敷蔵が、「山形」をコンセプトにしたショッピングゾーンとして生まれ変わります。母屋に沿って流れる御殿堰のせせらぎが、懐かしい山形のたたずまいと癒しの空間を演出します。



テナント募集中

お問い合わせ・・・七日町御殿堰開発株式会社
〒990-0042 山形市七日町二丁目7番6号
TEL: (023) 623-0466(株)結城屋内 FAX: (023) 623-0468
ホームページ=http://gotenzeki.co.jp/
e-mail=info@gotenzeki.co.jp



ナナビーズ ● セブンフーズ ● 七日町通り ● 七日町本店 ● 大湯山形本店

12日(土)は、七日町御殿堰にお越しください。

上棟祭

良き建物として栄えることを…。家屋の守護神ならびに工匠の神を祀るお祭りです。

◆散餅・散銭の儀

12/12(土) 16:00～
屋根から餅や銭を撒く懐かしい風習。どうぞ福を拾いにお越しください。

◆振る舞い酒

12/12(土) 16:30～
お祝いとして寿虎屋酒造の樽酒を振る舞います。※無くなり次第終了。

御殿堰を知る展示会

◆設計・施工資料展示

商業防火地区における東北最大の耐火木造建築の母屋をもつ、七日町御殿堰開発事業。その開発ビジョン、設計コンセプト、建物の解体から現在までの工事進捗状況などをパネル展示で紹介いたします。

■設計: 本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室 ■施工: 山形建設株式会社

◆奥山清行氏イラスト展示

山形出身の世界的デザイナー奥山清行氏が手がけた、七日町御殿堰開発のプロトデザインなどの秘蔵イラストを公開します。

◆五堰の流れ展示

現在も山形市内を流れる、歴史遺産としても貴重な山形五堰。堰の歴史や堰まつわる様々な活動を写真やパネルでわかりやすく紹介します。(主催: 山形五堰の流れを考える会)



座敷蔵の一般公開



明治3年に棟上げた座敷蔵が、百年の時を越えて再生。新たに店舗として生まれ変わります。お披露目をかねて『劇団 漢劇 WARRIORS』による、幕末の山形が舞台の演目「木蓮の涙」を上演。

◆七日町御殿堰 蔵劇場 演目「木蓮の涙」

●入場無料(混雑時は整理券を配布します。) ●日時・・・12/12(土)4回公演(第1回13:00～・第2回14:00～・第3回15:00～・第4回17:00～)



●演目: 木蓮の涙

舞台は明治維新もない山形。出羽山形藩最後の藩主水野忠弘に仕えた主簿家老水野三郎右衛門元宣が主人公。山形藩は戊辰戦争で当初官軍についたが、仙台藩、米沢藩が奥羽越前藩同盟を結成するに至り、やむなく官軍に反抗することとなる。しかし、同盟諸藩が次々に離脱し、山形藩も官軍に降伏。水野元宣は「山形藩の責任は全て自分一人にあり、他者には寛容のご処置を」と嘆願書を提出し、身を呈して山形を戦火から救う。明治2年5月20日、藩の責任を一身に負い27歳の若さで七日町長源寺庭にて刑死する。『漢劇 WARRIORS』が、その処刑前日の水野元宣を熱く演じます。

●劇団 漢劇 WARRIORS

山形南高等学校演劇部OB十数名が結成した劇団。『スーパー歌舞伎』で全国を巡業した佐藤陽介を中心に『笑いとアクション』を盛り込んだ漢(おとこ)だけの演劇(演劇(かんげき))をモットーに活動中。地元・山形を盛り上げる「地域に根差した劇団」を目指して、ボランティアやイベントへの参加など、演劇以外の活動も積極的にを行っています。

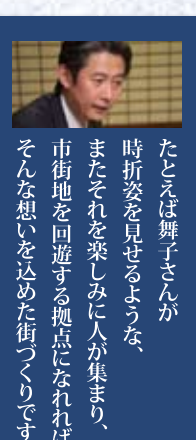
いにしえの水の流れが街を元気に。

城下町なのかまち——街づくり座談会

馬見ヶ崎川から農業や生活用水として水を引き、市街地を縦横に巡る5つの水路、山形五堰。なかでも霞城の堀を満たすことから名付けられたのが御殿堰です。400年の歴史に埋もれつつあるこの水路を街づくりの拠点とし、七日町に賑わいを創出する試みが始まります。

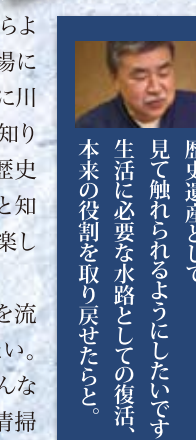
武田 かつての山形五堰はかなり改築されていますが、一部400年前の姿がそのまま残っています。ほとんどが「暗きよ※」とされていますが、市街地で川面が見られる貴重な存在です。
結城 ただ、それが若い人にはほとんど知られていません。七日町に水が流れているのは知っていても、それが何なのかは分からない。忘れ去られてきているのは事実です。
武田 そうですね。生活に欠かせない水路として利用されていたことは知らないですね。

新聞 「おみ漬」という漬物があります。その昔、笹堰の上流部で野菜を洗う際に、堰に流した不要な葉の部分を下流部の八日町付近の商人がもったいないとざるに拾い集め、漬物にしたのが始まりです。今の時代にこんな話をするとは食品衛生上あまりいいイメージはありませんが、五堰と山形の食文化の関わりという点でも多くの方に知ってほしいと思います。城下町やまがた探検隊で街を歩く時、山形は水路が街を巡り、地下水も豊富で、実は「水の街」ですと話すのですが、その象徴が霞城公園のお堀です。そして馬見ヶ崎川と堀を結び、扇状地の地形を生かして水を運んでいるのが「御殿堰」です。殿様が街を見下ろす高い場所ではなく、立地の一番低いところに城を構えているのも、山形ならではの、堰と深い関係があるんですね。



たとは舞子さんか、時折委を見せるような、またそれを楽しみみに入が集まり、市街地を回遊する地点になければ、そんな想いを込めた街づくりです。

青山 小学校の頃からよく映画を観る宝塚劇場に來ましたが、あの路地に川が流れているとは全く知りませんでした。それが歴史的にも貴重な御殿堰と知り、これからはかとも楽しみななりました。
武田 自分たちの街を流れる川をキレイにしたい。私たちの活動では、そんな単純な思いから堰の清掃に取り組み始めました。そのなかで、農業を培ってきた堰の役割を知り、勉強会なども開催してきました。堰に咲く梅の花に似た花をつける水草、梅花藻の保存・育成にも力をいれていきたいと思っています。
新聞 それと堰の石積みを元の形に戻し、身近で貴重な歴史遺産として見て触れられ



石積みを元の形に戻し、歴史遺産として見て触れられるようにしたいですね。そして、堰の一部分だけではなく、上流から下流まで暗きよをはずしていく。市民活動としてそんな方向に進めていければ、山形の城下町と堰が果たしてきた役割が、子供たちにも伝わっていくのではないのでしょうか。

結城 私も同感です。この度、御殿堰を中心とした再開発に取り組みにあたって、7代先まで通じる街づくりを考えました。今や郊外にショッピングモールができ、仙台も近くなっています。だからといって、山形がミニ仙台やミニ東京になっても意味がありません。仙台に行くのを止めるのではなく、逆に仙台から人を呼ぶような山形ならではの街づくりがこれからは必要です。
青山 若い人の多くは仙台に出かけてしまいがちですが、七日町の魅力は温かみや和

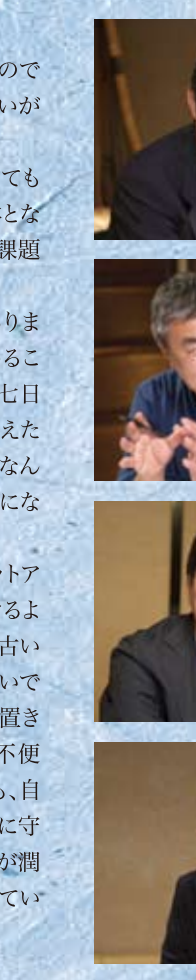


御殿堰の清流 専務寺付道

やかさ、気軽に買い物ができること。それに私たちがは気付いていないんです。LIRGでも、一番街商店街にある三浦人形店さんの一角をお借りして学生作品を展示販売したり、店舗入り口をアートで飾るコム・ミュージアムなどを通して、七日町にもっと人が集まるようにと活動しています。御殿堰の再開発も、街の魅力に気付くきっかけになると思います。
武田 私は旧寺町で商売をしています。七日町とはまた異なる文化、背景があります。それぞれが互いに連携できたら面白い街になって、人が回遊してくれるんじゃないかと。そういう意味では、今回取り組まれる再開発は、これまで私たちが行ってきた活動と堰によって繋がりました。寺町と七日町、堰の上流下流を結ぶ新しい物語の足がかりはできたのかなと思います。
結城 山形には蔵はもともと有名な建物や見どころが点在しています。これらを繋ぐような案内板を作ってはどうか、新聞さんとそんな話もしています。近くでも50メートル、100メートル圏内のご近所さん看板で、そこまで行けばまた次の50メートル先への案内があるといったイメージです。それを網

の目的に広げていけたらどうだろうと。
新聞 看板などは手作りでもいいですね。やはり、蔵があるんだってとか、堰があるらしいよとか、街の中に呼び込む手立てや街で時間を過してもらって仕掛けが大事になります。それが県外から訪れる人だけのためではなく、地元の人々が喜ぶ仕掛けであることが持続できるかの鍵だとも思います。
結城 七日町御殿堰開発の中心にある二階建ての母屋が商業施設としてありますが、市道として堰に沿った約60メートルのブロードウェイが生まれます。幅2.5メートルの石畳の道になります。また堰の対岸も同じ市道として整備される予定です。そして、山形舞子さんか時折委を見せるような、またそれを

居も上演します。
青山 お話を伺ってスケールが大きいので驚きました。テナントも多く、新しい賑わいがここから生まれていくのが楽しみです。
新聞 オープン後の通常の持続がとても大切になりますね。人、空間、モノが一体となって魅力を作り出す、付加価値づくりが課題だとも思います。
武田 新聞さんのお話にもありましたように、地元の人々が楽しめることが大事。そのうえで、寺町、七日町、旅籠町と、商店街の枠を超えた「かんばつるぞ」ネットワークなんかができれば、かなりのパワーになる気がします。
結城 旅行先なら、車をシャットアウトしてゆっくりと散策できるような街に感激するし、歴史ある古い街並みに魅力を感じる人が多いですね。これを自分たちの街に置き換えると、車が入れないのは不便だし、古い家は新しくしたいとなる。でも、自分たちが本当に大切にしたいもの、大事に守ってきたいものは何か。毎日の暮らしが潤う風景の必要性を感じ、しっかりと考えていきたいですね。



武田康三 新聞芳則 武田太郎 青山真澄

結城康三 株式会社結城屋代表取締役社長 御殿堰の清流 専務寺付道
新聞芳則 株式会社八日町代表取締役 城下町やまがた探検隊長
武田太郎 株式会社結城屋代表取締役 五堰の清流を巡る委員長
青山真澄 東北芸術工科大学デザイン工学部1年生のなかま話 性化口シタカ代表



「香琳閣まるはも」蔵敷にて撮影